

ハイライトよねやま 83

(財)ロータリー米山記念奨学会
2007年1月16日発行

1. 寄付金速報 2007年もよろしくお願いいたします

12月までの寄付金は、前年同期と比べて2.1%増、約1千9百万円増加しました。普通寄付金が0.7%増、特別寄付金が2.7%増で、11月末時点の不振を脱却し、増加へ転じました。

前年同期と比べ、300万円以上増額した地区が8地区あり、とりわけ第2650地区【福井・滋賀・京都・奈良】は、約600万円増、第2620地区【山梨・静岡】は約550万円増と、多大なご貢献をいただきました。

なお、12月26日付で、「2006年度下期普通寄付のお願い」を各クラブ宛にお送りしています。普通寄付金は、全ロータリークラブからクラブを通じてご送金いただくご寄付です。当会活動の安定的な財源となっていますので、お早めにご納入くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2. 2007-08年度ガバナーエレクト/米山奨学委員長合同セミナー開催

次年度の米山奨学事業のキックオフとなる2007-08年度ガバナーエレクト/次期米山奨学委員長合同セミナーが1月11日(木) 東京・港区の新高輪プリンスホテルで開催されました。

プログラムは、渡辺好政RI理事による基調講演で幕を開けました。講演の中で渡辺RI理事は「これから日本ロータリーが、東アジアのロータリーのモデレーター的な役割を果たしていく上で、米山奨学事業によって育まれた人材を活用していくことが最も有効である」との見解を示し、今後、具体的な働きかけを始める意向を明らかにしました。ロータリーの発展・連携の鍵を握る人材としての米山学友の存在が、今、大きくクローズアップされていると言えます。



午後の分科会では、次の4つのグループに分かれて、各講師による発表とディスカッションが行われました。次年度に実践できる施策のヒントを得てもらうことを目的とした構成に、地区間の情報交換も例年以上の盛り上がりを見せました。

- A. 「こうして寄付増進を実現」 (講師: 田村亮夫 第2770地区PDG)
- B. 「新しい奨学金制度の課題と展望」 (講師: 宮崎幸雄 米山記念奨学会専務理事)
- C. 「奨学生採用への工夫」 (講師: 高木貞一郎 第2840地区PDG)
- D. 「地区での米山奨学事業運営の基礎知識」 (講師: 関 博子 第2750地区次期米山委員長)



その後の全体会議では、分科会で出された意見の紹介や米山奨学事業への提言などが自由に発言されました。その中でも重点的に取り組むべき課題とされたのは、「広報」と「奨学期間終了後の学友の消息把握」です。広報は、「ロータリー会員への内部広報を一層推進するとともに、地域社会や一般の人々への認知度を向上させる取り組みも必要」との意見が出されました。また、学友の消息を誰が確認するかについては、「やはり世話クラブが主体となるべき」との声がありました。

分科会での活発な情報交換を受けて、アンケートでは、実践可能なアイデアの提案として、「奨学生とロータリアンとの交流の創設」に取り組みたいとの声が目立ちました。「奨学生の卓話の出席を増やす」「地区大会などで、奨学生が全員参加するイベントをつくる」「ガバナー月信に学友・奨学生のコーナーを設ける」「クラブ会員全員にカウンセラーを経験してもらう」。これらの“小さな約束”が、新年度にぜひ実行に移されることを期待します。

3. 現地採用奨学金の合格者決定！

現地採用奨学金の第一期生を選考するための最終面接が12月22日（金）ベトナム・ホーチミン市内で行われました。

6月の一次面接で選ばれた10名の候補者は、現地の日本語学校で初級と上級に分かれて約5ヶ月の特訓を受け、この日の面接に臨みました（うち1名は途中辞退、面接対象者は9名）。面接には、



最終面接の様子（ホーチミン市内にて）

米山奨学会選考委員の近藤雅臣氏と関場慶博氏、現地米山学友代表としてフィン・ムイ氏【タンロン技術学院院長】、坂下博康事務局長の4名が赴きました。初級クラスの学生は、まだ日本語の会話が十分ではなかったものの、いずれの学生も真剣な眼差しで日本留学の熱意を語る姿が印象的でした。今回の面接で合格者2人が選ばれ、春から夏にかけて来日する予定です。今後、日本での受け入れ大学が決定次第、詳細をご報告します。

また、1月8日付で、ベトナムの一般紙に2008年度採用の募集広告を掲載しました。（事務局長 坂下博康）

4. 秋の叙勲で旭日中綬章を受章！ 韓国の米山学友

平成18年秋の外国人叙勲で旭日中綬章を受章した米山学友、金榮作さんをご紹介します。

キム ヨンジャク
金榮作氏【国民大学名誉教授、現代日本学会長】
（1968-71 / 東京大学大学院 / 東京葛飾RC・東京神田RC）

1941年生まれ。ソウル大学卒業後、東京大学大学院で国際政治学を学び、修士・博士の学位を取得。国際基督教大学助教授、東京大学客員教授を経て、国民大学に勤務。第12代国会議員。著書に『韓末ナショナリズムの研究』（東京大学出版会、1975）、『21世紀韓日関係』（法文社、1997）等があります。



金榮作氏（中央右）と大島駐韓日本大使（中央左）

今回の受章は、2005年の日韓友情年において国交正常化40周年記念国際学術会議を成功させるなど、日本研究の振興および日韓の相互理解の増進に寄与した功績によるものです。

ロータリーの皆さま

私は日本へ留学した若き日の、試練の日々を思い出すたびに、それを乗り越える上で大きな支えとなった皆さまのご恩に、本当にありがたい気持ちでいっぱいになります。早いもので、あれからもう40年近い歳月が過ぎました。その間、私個人の身上にも、また日本と韓国の間にも様々な変化がありましたが、両国の間に友好・親善関係がますます深められつつあることを大変嬉しく思います。このたび、旭日中綬章の光栄を皆さまと分かち、感謝の気持ちをお伝えすると共に、また新たな心持ちで日韓両国の友好・協力と、北東アジアの平和と繁栄のために微力を注ぎたいと思います。どうも有難うございました。2007年1月 金榮作

確定申告用領収証 ～ 1月末日までにお届けします ～

1年間（1～12月）で5,000円以上の特別寄付をされた方には、1月末日までに（確定申告に間に合うように）申告用の領収証と認可証の写しを各ロータリークラブ宛に送付します。



（財）ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15
黒龍芝公園ビル3F

HAPPY NEW YEAR!

Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL : <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>
編集担当：野津・峯・大庭